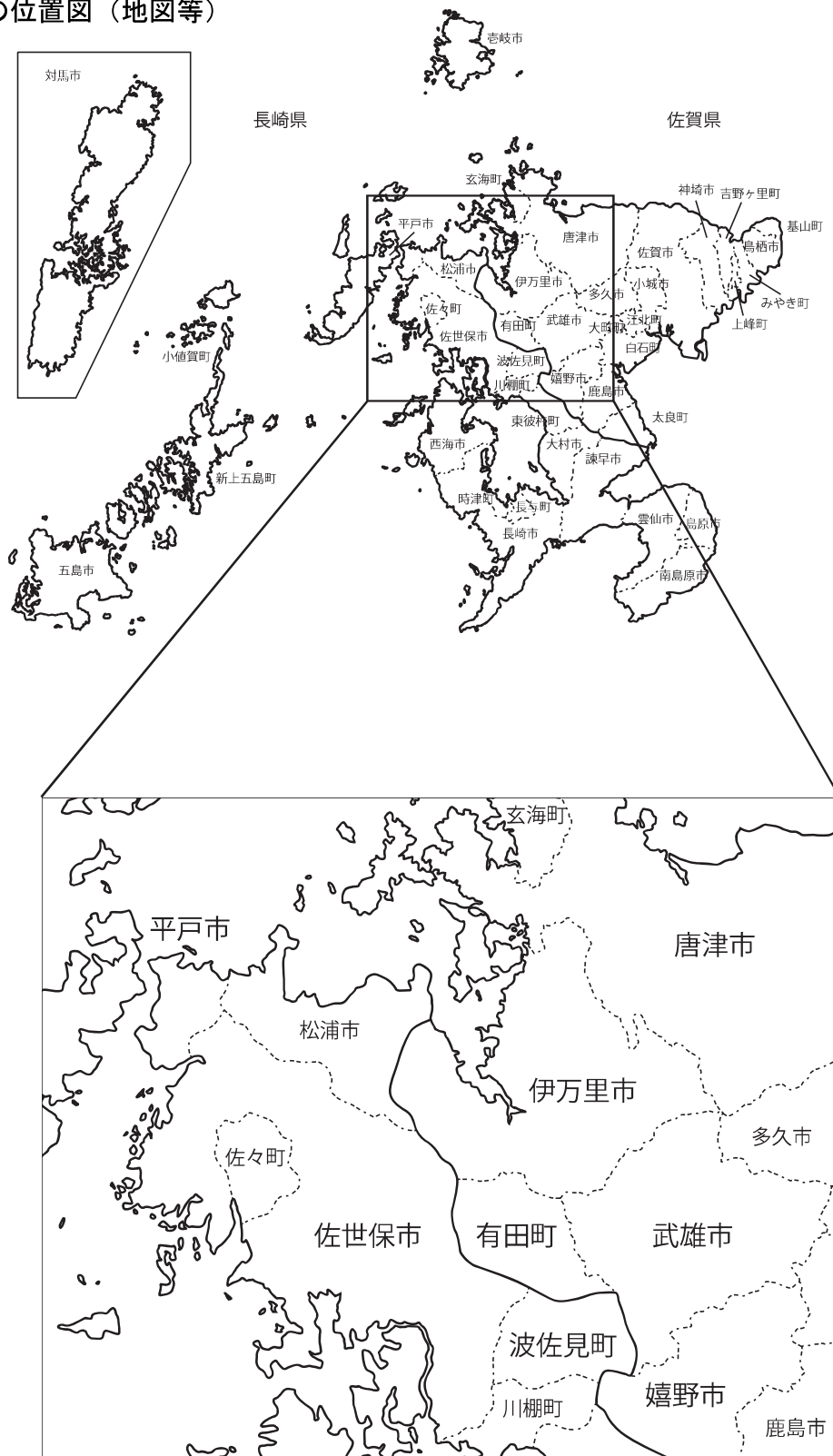


① 申請者	◎佐賀県、 (唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町) 長崎県 (佐世保市、平戸市、波佐見町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
【日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～】			
④ ストーリーの概要（２００字程度）			
陶石、燃料（山）、水（川）など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で、陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では、互いに切磋琢磨しながら、個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し、我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに、海外からも賞賛された。 今でも、その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は、歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じることのできる磁器のふるさとである。			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

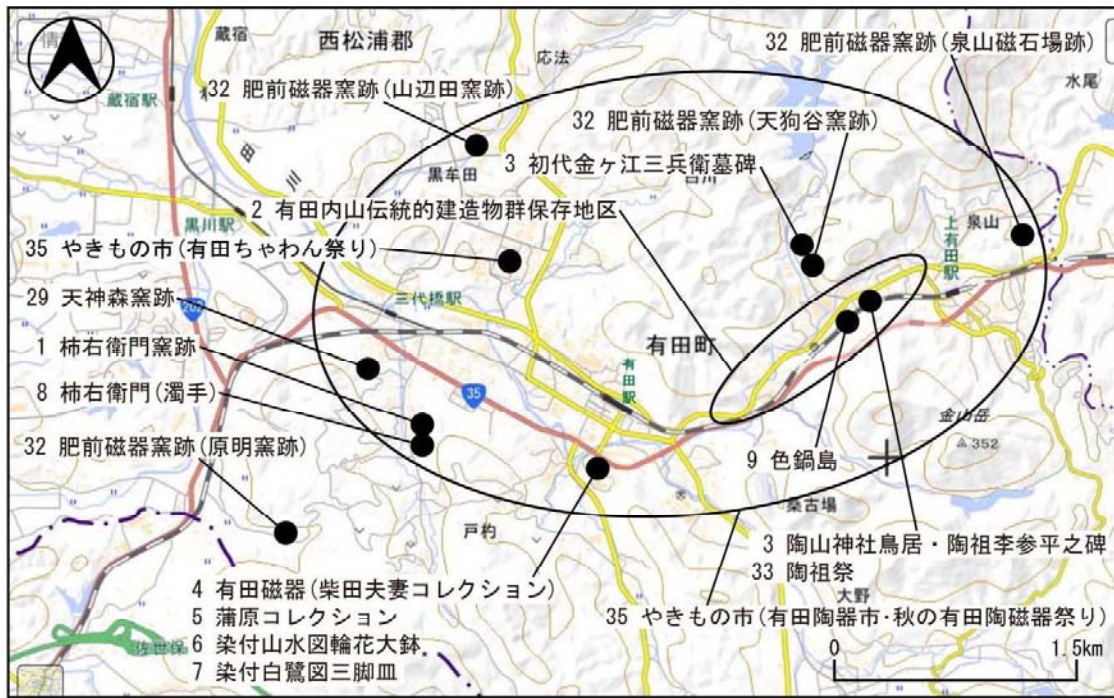
市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）



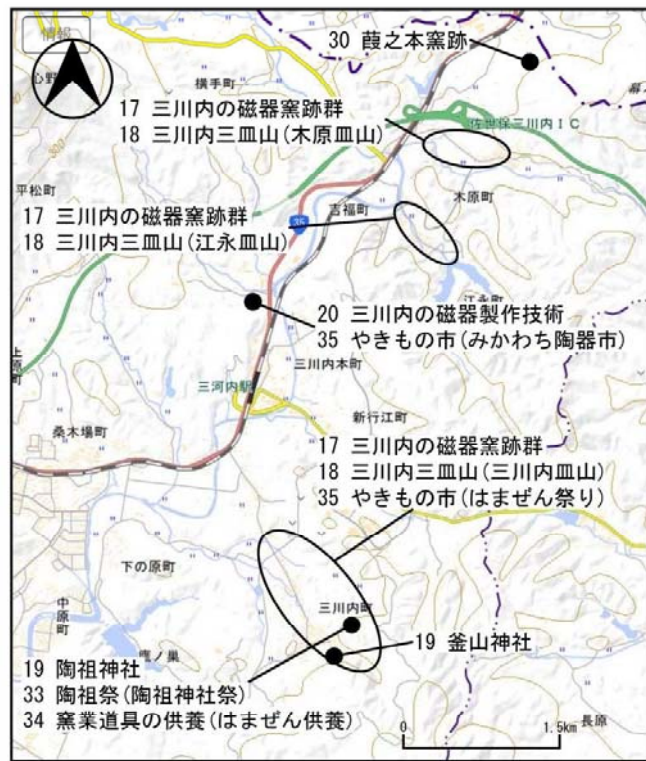
- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 10 : 大川内鍋島窯跡 | 32 : 肥前磁器窯跡 |
| 11 : 大川内山 | a : (百間窯跡) |
| 12 : 旧犬塚家住宅 伊万里津 | b : (不動山窯跡) |
| a : 旧犬塚家住宅 | 33 : 無縁塔祭 |
| b : 伊万里津 | 34 : 窯業道具の供養(筆供養) |
| 13 : 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢(現伊萬里神社) | 35 : やきもの市 |
| 14 : 嬉野の磁器窯跡群 | a : (春の窯元市) |
| a : (吉田) | (鍋島藩窯秋祭り) |
| b : (志田) | b : (肥前吉田焼陶器まつり) |
| c : (不動山) | (吉田焼辰祭り窯元市) |
| 15 : 志田焼の里博物館(旧志田陶磁器株式会社工場) | c : (唐津やきもんまつり) |
| 27 : 肥前陶器窯跡(御茶盃窯跡) | (唐津焼秋の窯元ツーリズム) |
| 28 : 茅ノ谷 1 号窯跡 | d : (武雄の紅葉と窯跡巡り) |
| 31 : 中野窯跡 | |



有田エリア



波佐見エリア



佐世保エリア



北波多エリア



武雄エリア

ストーリー

◆肥前窯業の始まりと日本磁器生産の幕開け

16 世紀末頃、九州北部の唐津市北波多周辺では陶器（唐津焼）の生産が行われていたが、そこへ「文禄・慶長の役（1592～1598）」の際に肥前の各大名が朝鮮半島から連れ帰った陶工の技術が加わり、伊万里・有田・武雄・三川内・波佐見など周辺各地へと産地が拡大した。そして 1616 年、朝鮮陶工の一人、金ヶ江三兵衛（李参平）が、磁器の材料となる良質の陶石を有田の泉山磁石場で発見し、日本の磁器生産が始まったとされる。こうして肥前の窯業は、日本のやきものの歴史に大きな一歩を踏み出した。

当時の日本において、白く光沢があり強度に優れた磁器の生産は、大きな技術革新であり、その白さは、色鮮やかで繊細な模様を描くことを可能にした。これにより、陶器や木製食器に加え、多彩な図柄が描かれた磁器を季節や料理にあわせて使い分けるなど、料理と器とともに楽しむ日本の食文化に新たな要素が加わることとなった。



泉山磁石場



連房式の登り窯（畑ノ原窯跡）

◆百花繚乱の産地形成

有田で芽吹いた磁器生産の技術は、各地での新たな陶石の発見を経て、三川内や波佐見、伊万里、嬉野でも発展し、これらの産地ではいわゆる肥前式と呼ばれる連房式の登り窯や共通の道具を使いながらも、それぞれの個性を際立たせるため、互いに技術を競いながら独自の華を開かせていく。

磁器発祥の地・有田では、当初は陶器と磁器を同じ窯で作っていたが、間もなく佐賀藩の主導により磁器専門の産地となり、乳白色の素地に余白を生かしつつ繊細な絵付けを施した柿右衛門様式や、金などの鮮やかな色を使った豪華絢爛な金襴手様式など、日本独自の色絵磁器が誕生した。

伊万里と三川内には、それぞれ佐賀藩、平戸藩が経営する御用窯が置かれ、将軍家への献上品など採算を度外視した最高級品が生産された。伊万里の大川内山では、精緻な線描きの染付による鍋島染付（藍鍋島）や、染付の藍に赤、緑、黄の三色の色絵を原則とする色鍋島、さらには釉薬を厚く掛けた深い青緑色の色調を特徴とする鍋島青磁などの鍋島焼が生み出された。また、平戸の中野から窯が移された三川内では、白磁をベースに繊細な彫刻で仕上げた技巧性の高い透かし彫りや卵の殻のように光にかざすと透けて見えるほど薄い卵殻手が作られた。

一方、巨大な登り窯により大量生産に成功した波佐見は、高価であった磁器を庶民の器へと変貌させた。このことは、江戸時代の日本各地の都市から農村に至る遺跡のほとんどで波佐見焼が出土していることからうかがえる。

また、嬉野では、中国で作られていた磁器の図柄に似せた吉田焼の色絵や、



有田焼（柿右衛門様式）

《色絵花鳥文皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



有田焼（金襴手様式）

《色絵赤玉雲龍文鉢》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



鍋島焼（色鍋島）

《色絵鶴鶴文皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



三川内焼

《染付三段重ね透彫紋入香炉》



波佐見焼

《くらわんか碗》



吉田焼

《色絵印判手仙境図大皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



志田焼

《染付象唐子文輪花大皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

オリーブ色が特徴の不動山の青磁、人物や動物を戯画的に表現した染付皿を中心とする志田焼が作られた。

こうした肥前磁器の製品は、主に伊万里津から積み出されて国内各地に流通し、その軽さや割れにくさといった使い勝手の良さから、わが国の暮らしの中に浸透していった。また、その一部は長崎を経由して東南アジアやヨーロッパなど海外にも輸出され、ヨーロッパの王侯貴族をも魅了し、マイセンなどの磁器生産にも大きな影響を与えた。

◆肥前窯業が育んだ景観と暮らし

400年にわたり紡がれてきた肥前窯業の歴史や文化は、地域の景観のなかに今なお息づいている。陶工の里である各地では、窯業の発展に欠かすことのできない陶石などの原料や水を提供してきた美しい山々を背景に、そのふもとに集落が連なり、古窯跡やレンガ造りの煙突、登り窯に用いたレンガや陶片を赤土に埋め込んだトンバイ塀が残り、橋の欄干など随所にやきものが使われている。

古い商家や洋館、多くの窯元の町屋が連なる趣深い町並みを残す有田の内山地区、山々に囲まれた水墨画のような幽玄な景観の中に窯元が建ち並ぶ伊万里の“秘窯の里”大川内山、代官所跡や運搬に使われた馬車道などに御用窯の栄華が偲ばれる三川内三皿山、世界最大の登り窯である大新登窯跡とともに山あいの窯元の家並みが残る波佐見の“陶郷”中尾山など、各産地ではそれぞれに近世から続く肥前窯業の悠久の息づかいが今なお感じられる。さらに、大正期から操業した嬉野の旧志田陶磁器株式会社工場や昭和初期に建てられた波佐見の旧福幸製陶所など、近代以降の窯業の営みを今に伝える建物も数多く見ることができる。

また、窯業は地域の暮らしにも深く根付いている。礎を築いた陶工たちを大切に祀る陶祖祭など、窯業に関わる伝統行事が各地で受け継がれているほか、料理を彩り引き立てる器を贅沢に使い、楽しみ、客をもてなす文化が育まれている。波佐見では、窯焚き職人が食していた「冷汁」が現在でも郷土料理として伝えられている。

◆歴史を刻み続けるやきものの里

肥前窯業の各地域では、現在でも窯業が地域産業の中核を担っており、互いに産地の特色を意識しながら技術の継承と向上に努めている。

100年以上の歴史を持つ有田陶器市をはじめ、伊万里、波佐見、唐津、佐世保（三川内）、嬉野、武雄の各地で開かれるやきもの市は、多くの人々が訪れる一大イベントとなっており、好みのやきものを求め散策しながら、作陶や絵付けも楽しむことができる。武雄の巨大な登り窯・飛龍窯や波佐見の畑ノ原窯跡の復元窯のほか、各窯元で行われる昔ながらの薪窯焚きは、伝統技術に触れることのできる貴重な機会となっている。

また、かつてヨーロッパに渡った肥前磁器の一部は、生産地である故郷に里帰りしており、海外進出の歴史を物語るコレクションとして佐賀県立九州陶磁文化館などで展示され、世界中からの来訪者の目を楽しませている。

この地は、400年もの長い窯業の歴史の中で培われた伝統や技術、景観や文化などの魅力を体感できる日本随一の地域である。



有田の裏通りなどに残るトンバイ塀



秘窯の里 大川内山



陶郷 中尾山



旧福幸製陶所



やきもの市(鍋島藩窯秋まつり)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	柿右衛門窯跡 かきえもん	国史跡	有田の南川山にある 17 世紀後半に操業した連房式登り窯の磁器窯跡。後に続く南川原窯ノ辻窯とともに「柿右衛門様式」の優品を中心的に生産した。	佐賀県有田町
②	有田内山伝統的建造物群 保存地区 ありたうちやま	国重要伝統的 建造物群保存 地区	白漆喰の伝統的な町屋や洋館など、江戸時代後期から昭和期の特徴的な建物が連なる有田町東部の地区。 有田の窯業の隆盛は、有田に裕福な町人文化を育て、中でも磁器生産の中心地であった内山地区には多くの窯元ややきもの商家が建ち並んだ。文政 11 年 (1828) に大火にみまわれたが間もなく復興され、近代になると洋風建築も加わった。	佐賀県有田町
③	初代金ヶ江三兵衛墓碑 陶山神社鳥居 陶祖李参平之碑 かねがえさんべえ とうざん りさんぺい	墓碑は有田町 史跡 鳥居は国登録 有形文化財 (建造物)	有田町内の墓地には、有田焼の陶祖とされる金ヶ江三兵衛 (李参平) の墓碑が残る。 また、陶祖を祀る陶山神社には、染付で全体に唐草文様が施された磁器製の鳥居 (明治 21 年 (1888) 奉納) があり、神社の山の中腹の有田町内が一望できる場所には、顕彰碑「陶祖李参平之碑」が有田焼創業 300 年を記念して大正 7 年 (1918) に造立されている。	佐賀県有田町
④	有田磁器 (柴田夫妻コレ クション) しばた	国登録有形文 化財 (美術工芸 品)	網羅的・体系的に収集された有田磁器のコレクション。柴田明彦・祐子夫妻から佐賀県立九州陶磁文化館に寄贈され、同館で常設展示されている。 点数は 10,311 点に及び、磁器生産の始まった江戸時代初期から幕末に至る有田磁器を中心に、その歴史的変遷がわかるように、様々な種類の作品が網羅的に揃っていることが大きな特徴である。	佐賀県有田町
⑤	蒲原コレクション かんばら	未指定	江戸時代にヨーロッパに輸出された、華やかで豪華絢爛な金襴手様式の作品を中心とする有田焼のコレクション。有田町出身の蒲原権氏がヨーロッパ各地で収集し、有田町に寄贈された。計 101 点。現在は佐賀県立九州陶磁文化館で常設展示されている。	佐賀県有田町

⑥	そめつけさんすいざりん か おおぼら 染付山水図輪花大鉢	国重要文化財 (工芸品)	有田の山辺田窯で 1640～50 年代に作られた染付の優品。有田磁器の技術革新を示す名品とされる。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑦	そめつけしらきぎざんきぬくさら 染付白鷺図三脚皿	国重要文化財 (工芸品)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯で 1690～1710 年代に作られた鍋島焼（鍋島染付）の傑作。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑧	かきえもん にごしで 柿右衛門（濁手）	国重要無形文化財 (工芸技術)	有田の陶工酒井田家では、正保 4 年（1647）に初代柿右衛門が赤絵（色絵）の焼成に成功し、17 世紀後半には濁手と呼ばれる乳白色の素地に余白をいかにして非対称の構図で上絵を配した「柿右衛門様式」を確立した。	佐賀県有田町
⑨	色鍋島	国重要無形文化財 (工芸技術)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯では、最高級材料与技術者によって鍋島焼と呼ばれる最高級品が生産された。中でも染付の藍に赤・緑・黄の色絵を施す色鍋島はその代表的な様式である。	佐賀県有田町
⑩	おおかわち 大川内鍋島窯跡	国史跡	佐賀藩が肥前磁器の製作技術を結集し 1660 年代頃に伊万里の大川内山に設置した藩営の御用窯跡。窯跡のほか、物原、御細工場跡、藩役宅跡、陶工屋敷跡群など古絵図にある遺構や地形が良好に残る。 ここで生産された磁器（鍋島焼）は、将軍家への献上や諸大名への贈答を目的とした最高級品であり、一般市場に出回ることにはなかったといわれる。	佐賀県伊万里市
⑪	おおかわちやま 大川内山	未指定	1660 年代頃に鍋島藩直営の御用窯が築かれた伊万里の大川内山地区では、現在も 30 の窯元が軒を連ねている。急峻な山々に囲まれた狭い谷間にトンバイ堀やレンガ造りの煙突、窯元が建ち並び、その背後に青螺山がそびえる山水画のような幽玄な風景は「秘窯の里」としての雰囲気醸し出している。	佐賀県伊万里市
⑫	いぬづか 旧犬塚家住宅 伊万里津	住宅は伊万里市有形文化財	文政 8 年（1825）に伊万里津に建てられたやきもの商家の旧宅を修理復元したもの。伊万里津はやきものの積出港として栄え、千軒在所といわれるほど数多くの白壁土蔵造の商家が建ち並んでいた。 現在、この建物は「伊万里市陶器商家資料館」として、かつての伊万里津の賑わいや商いの様子を伝えている。	佐賀県伊万里市
⑬	ととしま どうろう ちょうず 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢	未指定	文化 11 年（1814）に海上安全守護のためやきものの積出港として栄えた伊万里津の戸渡嶋神社に寄進された灯籠と手水鉢。	佐賀県伊万里市

	(現伊萬里神社)		石灯籠は筑前商人関係者から、手水鉢は紀州商人からの寄進で、伊万里津を拠点としたやきものの流通に全国各地の商人が深く関わっていたことを示している。 なお、戸渡嶋神社は現在、伊萬里神社に合祀されている。	
⑭	うれしの 嬉野の磁器窯跡群	一部国史跡	17 世紀以降の嬉野市内の吉田や志田、不動山で営まれた磁器窯跡群で、いずれも連房式の登り窯である。 17 世紀から操業した吉田焼の窯では中国の呉須赤絵に似せた色絵磁器を生産し、一部は東南アジアにも輸出された。1700 年頃から始まった志田焼は、幕末には 5 基の連房式登り窯によって染付を中心とした皿類が大量に生産された。不動山の窯跡は確認されているだけで 5 基を数え、17 世紀後半に芙蓉手の染付皿や青磁製品などが焼成された。	佐賀県嬉野市
⑮	志田焼の里博物館 (旧志田陶磁器株式会社工場)	未指定	嬉野で大正期から昭和 50 年代まで操業した志田陶磁器株式会社の工場。陶土製造から焼成までのすべての工程を大規模に行っていた。志田は波佐見と同様に庶民向けの器の大量生産供給地であり、工場跡には国内最大級の石炭窯も残る。 現在は「志田焼の里博物館」となっており、原料加工から焼成までの作業工程など往時の姿を見ることができる。	佐賀県嬉野市
⑯	ひりゅう 飛龍窯	未指定	陶器(唐津焼)の一大産地であった武雄市黒牟田地区に陶芸の里武雄の拠点として作られた、世界一の容積を誇る連房式の登り窯。飛龍窯のある竹古場キルンの森公園内には、利用可能な登り窯「向窯」もあり工房ではろくろや楽焼体験ができ、陶芸教室も行われている。毎年 2 月には、数千本の灯ろうを一斉に点灯させる「TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭り」が開催される。	佐賀県武雄市
⑰	みかわち 三川内の磁器窯跡群	未指定	平戸藩では、寛永 10 年(1633)に針尾島(佐世保市)で磁石場が発見されると、長葉山窯で初めて磁器の生産が行われた。慶安 3 年(1650)には中野窯の陶工たちを三川内皿山に移し、藩営の御用窯の体制を強化した。17 世紀後半から稼働した御用窯の三川内東窯跡、三川内西窯跡は連房式登り窯で、その操業は昭和期まで続いた。また、江永皿山、木原皿山でも民窯で磁器の生産が行われた。現在でもそれ	長崎県佐世保市

			らの痕跡が残されている。	
⑱	三川内三皿山 みかわちさんさらやま	未指定	三川内焼の産地であった三川内、江永、木原の三地区の皿山。窯跡やトンバイ塀、レンガ造りの煙突のほか、古い家並みや昔ながらの道筋が残り、現在でも窯元が建ち並ぶ。 中でもその中心である三川内皿山には、平戸藩の御用窯であった東窯・西窯跡のほか、その優れた技術を伝承するために明治期に開設された三川内陶磁器意匠伝習所跡や、昭和期に操業した今由製陶所窯跡などが残る。	長崎県佐世保市
⑲	陶祖神社 釜山神社 とうそ かまやま	未指定	三川内焼の発展に貢献した先人を敬い祀る神社。陶祖神社には平戸藩御用窯二代目の今村弥治兵衛(如猿)が、天満宮内の釜山神社には伊万里から陶工たちを連れて移って来たといわれる三川内の陶祖の一人、高麗姫(中里エイ)が祀られている。	長崎県佐世保市
⑳	三川内の磁器製作技術 みかわち	一部は佐世保市無形文化財	三川内の平戸藩御用窯で高級品を生産するため培われた技術。現在も三川内の窯元に受け継がれ、様々な製品が生み出されている。 竹筥等で切り取り格子や花卉の模様など細かな装飾を作り出す透かし彫りや、卵の殻のように透けるほど薄く削る卵殻手(薄胎)は三川内を代表する技法である。このほか、菊花飾細工や捻り細工、置き上げなどの細工技術や器の内部に繊細な山水画を施した内山水絵技術、松に牡丹と戯れる唐子を配した図柄の染付技術など多様である。	長崎県佐世保市
㉑	肥前波佐見陶磁器窯跡 はつさみ	国史跡	波佐見で 16 世紀末から近代にかけて操業した窯跡。いずれも連房式の登り窯で、現在までに 36 基が確認されている。 波佐見焼の窯の大きな特徴の一つが、大量生産を可能とした世界最大級の巨大な登り窯である。「くらわんか手」と呼ばれる簡素な磁器は江戸時代後期を中心に国内各地に流通し、高価だった磁器の大衆化に大きく貢献した。	長崎県波佐見町
㉒	智恵治窯跡 ちえぢ	長崎県史跡	また、明治期に開窯し改修を経ながら戦後まで操業した智恵治窯跡は、窯の天井部まで現存しており、伝統的な登り窯の構造を伝える貴重な窯跡である。	長崎県波佐見町

②③	陶郷・中尾山	未指定	波佐見焼の産地として江戸時代初期から現代まで連綿と続く窯業集落。 世界最大級の登り窯跡や、明治期のやきもの卸商家である中尾山うつわ処赤井倉のほか、レンガ造りの煙突やトンバイ塀などが残り、現在でも窯元が操業を続けている。	長崎県波佐見町
②④	福重家住宅主屋・旧福幸製陶所	国登録有形文化財 (建造物)	波佐見で磁器を生産した福幸製陶所とその経営者である福重家の建物群で、いずれも昭和初期の築造。「福重家住宅主屋」及び「旧福幸製陶所事務所」・「旧福幸製陶所細工場」・「旧福幸製陶所絵書座」からなり、波佐見焼を代表する製陶工場の様相を伝えている。 現在、旧福幸製陶所の建物群はカフェや雑貨店として活用されている。	長崎県波佐見町
②⑤	波佐見の生地成形技術	未指定	波佐見における日用磁器の生地(素焼き前の器)を成形する技術。 江戸時代、波佐見では蹴轆轤による生地の成形技術を高度化させ、磁器の大量生産を可能とした。その技術を背景に、近代以降には鋳込み成形や機械轆轤成形など新たな技術を導入し、肥前における生地生産の中核として発展を遂げた。現在も肥前一带に生地を供給し続け、肥前磁器生産の「裏方」的役割を担っている。	長崎県波佐見町
②⑥	冷汁	未指定	波佐見に伝わる伝統的な郷土料理で、キュウリなどの夏野菜を使った味噌汁ベースの汁を御飯の上にかけたもの。 窯に薪をくべ火力を調整する窯焚き職人たちが暑い夏場に好んで食したといわれる。	長崎県波佐見町
②⑦	肥前陶器窯跡	国史跡	16世紀末以降に陶器(唐津焼)を生産した窯跡群。 肥前の窯業の歴史は、1580年代頃に朝鮮半島の技術を導入した陶器(唐津焼)の窯が岸岳城(唐津市北波多)周辺にできたことで始まる。間もなく「文禄・慶長の役」での岸岳城主・波多氏の改易による陶工離散や、各大名が朝鮮半島から陶工らを連れ帰ったことにより、その生産地は肥前各地へと拡大した。窯跡はいずれも朝鮮半島の技術に由来する割竹式や連房式の登り窯である。 肥前地域での陶器(唐津焼)の生産	佐賀県唐津市、武雄市
②⑧	茅ノ谷1号窯跡	佐賀県史跡		佐賀県伊万里市
②⑨	天神森窯跡	未指定		佐賀県有田町
③⑩	葭之本窯跡	長崎県史跡		長崎県佐世保市

③①	中野窯跡	長崎県史跡	は、江戸時代以降も継承されていく一方で、その技術を母体として、この地で日本初の磁器の焼成が開始されることとなる。	長崎県平戸市
③②	肥前磁器窯跡	国史跡	17 世紀前半の磁器生産初期段階に操業した窯跡群及び泉山磁石場跡。窯跡はいずれも連房式登り窯である。 磁器は当初、陶器窯の中で陶器とともに焼成されたが、寛永 14 年 (1637) に佐賀藩が有田一帯の陶器窯を廃して窯場の整理・統合を行った。これを境に有田は磁器専門の産地へとシフトすることになった。	佐賀県有田町、武雄市、嬉野市
③③	陶祖祭 無縁塔祭	未指定	有田、波佐見、三川内の各地域では、それぞれの陶祖を敬い偲ぶ陶祖祭 (陶祖神社祭) が毎年 5 月に営まれている。また、伊万里の大川内山では毎年 4 月に、江戸時代の陶工たちを祀る供養塔で無縁塔祭が行われ、先人の偉業をたたえている。	佐賀県有田町、伊万里市 長崎県佐世保市、波佐見町
③④	窯業道具の供養	未指定	三川内では毎年 5 月にやきものの焼成に使う円盤型の使い捨ての台「はまぜん」の供養が、また伊万里では毎年 11 月にやきものの絵付けに使用する筆の供養が行われている。	佐賀県伊万里市 長崎県佐世保市
③⑤	やきもの市	未指定	肥前窯業の各産地で行われるやきもの市で、例年多くの来場客で賑わっている。 中でも有田町で毎年 4 月 29 日～5 月 5 日の一週間にわたって行われる有田陶器市は、明治 29 年 (1896) の有田五二会陶磁器品評会以来 100 年以上の歴史を有し、大正期から現在の陶磁器販売市の形が加わった。 ＜有田町＞有田陶器市 (4, 5 月)、秋の有田陶磁器祭り、有田ちゃわん祭り (11 月) ＜伊万里市＞春の窯元市 (4 月)、鍋島藩窯秋祭り (11 月) ＜嬉野市＞肥前吉田焼陶器まつり (4 月)、吉田焼辰祭り窯元市 (11 月) ＜唐津市＞唐津やきもんまつり (4, 5 月)、唐津焼秋の窯元ツーリズム (11 月) ＜武雄市＞武雄の紅葉と窯元巡り (10～11 月) ＜佐世保市＞はまぜん祭り (5 月)、みかわち陶器市 (10 月) ＜波佐見町＞波佐見陶器まつり (4, 5 月)、桜陶祭 (4 月)	佐賀県有田町、伊万里市、嬉野市、唐津市、武雄市 長崎県佐世保市、波佐見町

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①柿右衛門窯跡



③陶山神社鳥居



②有田内山伝統的建造物群保存地区



③陶祖李参平之碑



③初代金ヶ江三兵衛墓碑



④有田磁器（柴田夫妻コレクション）



⑤蒲原コレクション



⑧柿右衛門 (濁手)



⑥染付山水図輪花大鉢



⑨色鍋島



⑦染付白鷺図三脚皿



⑩大川内鍋島窯跡



⑪大川内山



⑬旧戸渡嶋神社手水鉢（現伊萬里神社）



⑫旧犬塚家住宅（手前の建物）、伊万里津



⑭嬉野の磁器窯跡群
（上福 2 号窯跡）



⑬旧戸渡嶋神社灯籠（現伊萬里神社）



⑮志田焼の里博物館
（旧志田陶磁器株式会社工場）



⑩飛龍窯



⑪陶祖神社



⑫三川内の磁器窯跡群
(三川内東・西窯跡)



⑬釜山神社



⑭三川内三皿山
(三川内皿山)



⑮三川内の磁器製作技術
(透かし彫り)



撮影／大川裕弘

②⑩三川内の磁器製作技術
(卵殻手 (薄胎))



撮影／大川裕弘

②⑪肥前波佐見陶磁器窯跡
(畑ノ原窯跡)



②⑫肥前波佐見陶磁器窯跡
(中尾上登窯跡)



②⑬三川内の磁器製作技術
(菊花飾細工)



撮影／大川裕弘

②⑭三川内の磁器製作技術
(唐子染付)



撮影／大川裕弘

②⑮智恵治窯跡



㊤陶郷・中尾山



㊥波佐見の生地成形技術



㊦福重家住宅主屋



㊧冷汁



㊨旧福幸製陶所



㊩肥前陶器窯跡
(御茶盃窯跡)



㊸茅ノ谷 1 号窯跡



㊹中野窯跡



㊺天神森窯跡



㊻肥前磁器窯跡
(天狗谷窯跡)



㊼葎之本窯跡



㊽肥前磁器窯跡
(泉山磁石場跡)



③③陶祖祭
(波佐見町)



③④窯業道具の供養
(筆供養)



③③無縁塔祭



③⑤やきものの市
(有田陶器市)



③④窯業道具の供養
(はまぜん供養)



撮影／松尾宏也

③⑤やきものの市
(波佐見陶器まつり)



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
37	日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～

(1) 将来像 (ビジョン)

1. 日本遺産を活用してどのような地域を目指すのか

「日本磁器のふるさと肥前」では良質な陶石が採取されるなど窯業を営むことに適した自然条件や、磁器が入る前から陶器を生産していた唐津に朝鮮陶工の技術が加わり、磁器生産が佐賀県有田町泉山で肥前窯業の源流が生まれ、平戸（後に佐世保市三川内）、波佐見、伊万里、嬉野など肥前地区一帯で個性際立つ独自の華を咲かせて武雄へも陶器と磁器の生産が広がっていった。400 年にわたり紡がれてきた歴史は美しい山々を背景とした集落やトンバイ堀、大新登窯跡、器にまつわる各地で異なる技法や焼成技術ややきものたちは百花繚乱であり、肥前窯業の悠久の息遣いが今も感じられるエリアとなっている。

肥前窯業圏は、ウィズコロナの新しい時代において、域内の美しく豊かな自然や多様な歴史、文化がこれまで以上にその個性を魅力や価値として見いだされている。更に令和 4 年秋ごろには西九州新幹線が暫定開業するなど、全国から注目され高く羽ばたくチャンスも到来している。

これらのチャンスに加え、先人たちが育んできた魅力や伝統が、子どもたちをはじめとした地域住民の誇りに思うよう適切に保存・活用・継承していく。

また、日本遺産を活用して地域活性化を図っていく上では、域外から多くの方に来訪いただき、その魅力や伝統などストーリーで知的好奇心を高めて五感で感じてもらうことが重要であり、窯元のほか観光業や飲食業など民間事業者がストーリーを理解しそれぞれの役割を担った発信をする必要がある。そのためには、まず行政と民間事業者がそれぞれの手法を共有し、一体となって取り組んでいかなければならない。民間事業者が企画運営し協議会が後方支援を行うなど協働で取り組んだ体験コンテンツなどを作り出し、旅行会社との協働や、周遊パスポートのようなツールを活用し来訪者が参加できる機会を増やしていく。それらを通して来訪者が繰り返し肥前窯業圏を訪れ、交流人口が増えていくことで、民間事業者だけでなく地域住民などにも波及効果が生まれていくようなサイクルが生まれる地域を目指す。

2. 文化財の保存・継承・活用

佐賀県総合計画 2019 において「豊かな文化・歴史の継承と魅力発信」と位置づけ、文化財の保護・活用に取り組んでいる。加えて令和 2 年度から佐賀県文化財保存活用大綱の作成に着手し、令和 3 年度に完了するが、この中では人材育成及び情報化の視点を踏まえ、「現状把握」「災害対策」「市町との関わりの深化」を三つの柱とするとされている。また、令和 3 年度には、佐賀県文化財保護条例の一部が改正され、文化財の登録制度が創設されることになっており、登録制度の新設により、文化財保護の裾野が広がること

は、新たな文化財の掘り起こしに繋がるものと考えられる。

また、長崎県文化財保存活用大綱における基本方針として、

- 魅力ある文化財があふれる長崎県
- 地域みんなで文化財を守り、伝える長崎県
- 文化財で地域がかがやく長崎県
- 身近に文化財を感じることができる長崎県

の4点が挙げられており、これらの計画や方針、制度内容の趣旨を踏まえ、日本遺産構成文化財についても同様の方針で保存・継承・活用を推進していく。

これに加え、文化庁から伝統的建造物群保存地区に選定されている有田町有田内山伝統的建造物群保存地区等においては、引き続き保存修理事業を進め伝統的町並み景観の回復と文化財的価値の向上に努めていく。ほか、波佐見町においては鬼木・中尾地区の（波佐見町の文化的景観）文化的景観保護推進事業の認定に向けて準備を行っている。

3. 地域活性化のための取組

○地域住民の誇り醸成

- ・学校教育機関と連携し、より地域住民（特に未来を担う小・中・高生）に対する陶磁器文化普及啓発を推進する。（学芸員の協力も検討）

○魅力を感じる場づくり（受入体制の強化）

- ・クラフトツーリズムによるストーリーの体験
- ・歴史・文化に精通し相手の趣向をとらえることができるガイドの育成や、民間事業者や関係団体と協働し、各々の店舗がそれぞれ来訪者日本遺産のストーリーを案内できる「まちの小さな観光案内所」を増やす。

○日本遺産と観光を結び付けた情報発信と広域的な観光振興

- ・各地を周遊させるため、交通機関と体験等の施設利用を結び付け、地域での消費を促し活性化につなげる（例：DXの取り組み、MaaSの検討）

○推進体制の強化

- ・地域が協働し、取り巻く環境の変化に対応できる圏域づくり
- ・民間事業者等の取り組みが自走する仕組みづくり
- ・各地の行政や観光・商工団体、陶磁器関係団体等による協議会に加え、各地の個性的な魅力を活かし、その魅力を感じてもらえる場づくりや、来訪者を飽きさせることなく、繰り返し訪問してもらえるような企画づくりのため、関係機関と円滑な連携を図るコーディネーターを配置する

【佐賀県】

・佐賀県総合計画 2019（令和元年～）

『第3章4-（5）③ものづくり産業の振興』において、やきものをより多くの方々の手にとっていただけるような取り組みを行っていくことについて記載したり、肥前窯業圏への就業率アップを目標とする旨を記載。『第3章5-（1）②豊かな文化・歴史の継承と魅力発信』において、陶磁器の文化的・歴史的資産を保存・活用・継承に取り組んで

いく旨を記載。

- ・佐賀県文化財保存活用大綱
令和３年度中に策定予定

- ・九州陶磁文化館の展示リニューアル

日本磁器のふるさととされる有田町に所在する佐賀県立九州陶磁文化館について、日本遺産の解説や、佐賀県・長崎県にまたがる肥前窯業圏のストーリーを適切に伝えるために展示のリニューアルを実施

【佐賀県内市町】

- ・唐津市総合計画

第１章基本目標５ において、やきものをはじめとした多彩な文化を市民、団体、企業等と一体になって、歴史的・文化的資源などの「宝」を相互に繋ぎ、活用する旨記載

- ・伊万里市総合計画

Ⅲ 基本計画 文化財の保存・活用において国史跡大川内鍋島窯後の史跡整備を行うことや、伝統技術の継承・新規の商品開発や販路拡大に取り組むことや、日本遺産認定を契機に圏域内の自治体との連携を強めながら魅力を発信する旨記載

- ・武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略

具体的施策（２） において、窯業などの伝統的地場産業については、新商品開発や食と器などの地域資源との掛け合わせによる新しい価値の創出などへの取り組みを支援していく旨記載

- ・嬉野市総合計画

施策展開 において日本遺産「肥前窯業圏」によるやきものを中心とした情報発信、魅力的な商品開発・販路開拓に取り組むことや、新幹線駅を中心に肥前窯業圏のハブの役割を果たす地域として取り組みを行っていく旨、計画に記載

- ・有田町総合計画

第２章第４節 食と器で人が集まりつながるまち において、やきものを中心とした地域産業の振興、新産業の創出、国際交流を通じた地域振興などに取り組むことや、肥前窯業圏活性化推進協議会との連携しながら日本遺産関連事業を進めていく旨記載

【長崎県】

- ・長崎県総合計画（令和３年度～７年度）

地域別計画において、地域づくりの方向性として「世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」、２つの日本遺産「肥前窯業圏」「佐世保鎮守府」、国内で初めて国史跡に指定された唯一の海底遺跡である「鷹島神崎遺跡」や本県観光の核であるハウステンボスを有する強みを活かし、九州新幹線西九州ルートの開業も見据え、県北地域における観光客の周遊促進と県境を越えた広域周遊ルートの構築などの取組を推進します。」と記載

- ・長崎県観光振興基本計画（令和３年度～令和７年度）

施策1-(3) 県内に4件ある日本遺産について、「ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる文化財群を主体となる地域とともに総合的に整備・活用し、国内外へ積極的に発信していくことにより、地域の活性化につなげていきます。」と記載

- ・長崎県文化財保存活用大綱：ビジョン2に記載済み

【長崎県内市町】

- ・第7次佐世保市総合計画（令和2～9年度）

施策1「観光の振興」において、「2つの日本遺産「鎮守府」と「三川内焼」をはじめとした本市の魅力的な地域資源の更なる磨き上げと情報発信、誘致活動を関係機関と連携して行うことで、国内外からの交流人口の増加を図り、観光消費額の拡大に繋がります。」と記載

- ・平戸市文化財保存活用地域計画

第9章 地域資源の保存・活用を推進するための体制整備の方針において地域計画では、「交流」を軸に文化観光を推進し、地域資源の保存・保全と活用を図ることとしていると記載

- ・波佐見町基本計画

主要政策1 観光の推進において「高速道路網の発達に伴い福岡からの観光客を明確なターゲットとして、ハウステンボスや近隣の有力な観光スポットとの連携や日本遺産に認定された「肥前窯業圏」の連携も含め周遊性を一層深めながら観光の振興を図っています。」と記載

（2）地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：肥前窯業圏の主要文化施設の来訪者数

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	250,851人	155,865人	-	200,000人	210,000人	220,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		やきもの圏を来訪する域内住民や国内外からの観光客が、圏域内でグルメや観光、体験等さまざまなコンテンツを通してやきもの圏のストーリーに触れるため、特にストーリーが感じられる域内のグルメや観光、体験等スポット（主要観光施設）の来訪者数によりエリアの魅力を体験した人数を把握する。				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：九州陶磁文化館の入場者数

年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	43,231 人	16,416 人	20,000 人 程度(見込)	25,000 人	30,000 人	35,000 人
目標値の設定の考え方 及び把握方法		佐賀県立九州陶磁文化館は、海外からの観光客も多く訪れる陶磁器専門の博物館であり、九州各地の陶磁器を収集展示する肥前窯業圏における代表的な文化観光拠点としての機能を有しており、日本遺産の情報発信のコアとなる施設であることから、入場者数を肥前窯業圏の魅力を体験した人数として把握する。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域の歴史文化に誇りや愛着を感じる住民の割合						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	-	-	-	50%	51%	52%
目標値の設定の考え方 及び把握方法		ランダムに選んだ地域住民へのウェブ等によるアンケートや長崎県県政アンケート内項目を指標として設定				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：新たな着地型旅行商品素材数（累計）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	-	-	-	3 件	6 件	9 件
目標値の設定の考え方 及び把握方法		肥前窯業圏の魅力を知っていただくためには、産地ごとに異なるやきもの文化の違いを、地域を周遊しながら感じていただく必要がある。そのため、各産地で魅力ある着地型旅行商品を作り出し、協議会で造成した商品数をカウントする。(延べ数)				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：事業収益やふるさと納税のうち、再投資した金額						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	-	-	-	200,000 円	250,000 円	300,000 円

目標値の設定の考え方 及び把握方法	やきもの圏のポータルサイトを通じたアフィリエイト収入や窯ガチャや周遊パスポートの売上、ふるさと納税等を事業収益とし、それらを財源としてやきもの圏の発展に資する事業を行った額を把握する
----------------------	---

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産協力団体・企業数（累計）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	34 件	40 件	47 件	50 件	53 件	56 件
目標値の設定の考え方 及び把握方法	協議会のイベント支援や企画会議への参画など様々な形で関わる「事業パートナー制度」を 2016 年度実施。2021 年を基準とし、事業パートナーや共同で事業を行った企業数を目標とし、毎年 3 件の増加数を目標とする。（延べ数）					

(3) 地域活性化のための取組の概要

「日本磁器のふるさと 肥前」のエリア内には、磁器や陶器など多種多様なやきもの文化が各産地において脈々と受け継がれており、そのストーリーや特色・違いが地域の大きなコンテンツである。それらを地域の内外の方に幅広く知っていただき、体感していただくことで、本エリアの活性化へとつながっていくと考えている。

これを踏まえ、これまで

- ・組織体制や財源など、協議会の安定運営のための基盤整備
- ・メディアや SNS 等のツールをはじめイベント、シンポジウム等を利用した情報発信
- ・ガイドの現地研修、産地の底上げのためのマーケティング研修等の人材育成
- ・事業戦略の策定
- ・案内板や HP の製作・多言語化、圏域内の英語表記のサウンディング等 受入体制構築
- ・体験コンテンツや旅行商品等の開発による民間事業者との協力、事業の自走化
- ・伝統的建造物群の保存・整備・活用（地元子どもたちへのワークショップ等も含む）
- ・陶磁器に関する遺産の「佐賀県遺産」への認定
- ・周遊パスポートの作成やアフィリエイト、「窯ガチャ」等による協議会での収益確保
- ・佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン事務局との連携

等の事業を継続して行ってきた。

これらの取り組みにより、

- ・圏域内の主要文化施設において入館者数が増加し、圏域内に人を呼び込めるようになったほか、佐賀・長崎での産地及び自治体間の連携体制の構築や、産地間での自発的な協力事業の発生、継続性のある産地間イベントが構築されるなど、やきもの文化の違いやストーリーを感じていただけるようなコンテンツが発生し自走するような機運が醸成されている
- ・日本遺産ガイドの育成や圏域内のモデルコースの造成、案内板の設置や周遊を促すツールや HP の作成など、実際にお越しいただいた方々に日本遺産を感じていただけるような受け入れ体制も徐々に構築することができている

ような成果が生まれている。

一方で

- ・協議会での収益事業を検討し実行しているが、民間事業者へ協議会機能を移行させるほどの収益はまだ出ていない
- ・情報発信等でやきもの文化の PR を行っても、日本遺産自体の認知向上につながっていない。
- ・徐々に成果は出てきているものの、圏域へ人を呼び込む工夫や仕掛けが不足している
- ・「肥前窯業圏」ならではの歴史的・文化的なストーリーや背景とその先にある各産地の個性・特色を活かした情報発信やそれに伴った多言語化などの措置がさらに必要である

のような課題が明らかになった。

また、協議会のオブザーバーであり、地域経済学が専門の長崎県立大学地域創造学部の竹田英司准教授からは、「日本遺産に認定されていることそのもの」や「構成文化財にもっと光が当たること」についても検討するよう課題を示していただいているところである。

これまで行ってきたこれらの取り組みや明らかになった課題、「佐賀県総合計画 2019」・「長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ 2025」や各市町の総合計画等に掲げる将来像を踏まえ、日本遺産を活用しながら、多くの方が肥前窯業圏の歴史や文化の素晴らしさを再発見・再認識できるよう次の事業に取り組み、肥前窯業圏の更なる活性化を推進していく。

【取組 1：協議会事業の推進体制の強化】

日本遺産や肥前窯業圏の継続した活性化のために協議会が引き続いて機能して事業を行えるよう、財源・収益の確保、検討を行い、協議会の民間移行に備える。

具体的には、協議会での収益事業を検討し実施することに加え、構成市町からの協議会負担金の徴収、内閣府地方創生推進交付金の活用、ふるさと納税の活用等による財源確保を行う。

また、協議会事業の効果を最大化するため、専門家などのオブザーバーを設置し連携することで、知見やノウハウの蓄積を図る。

【取組 2：産地の収益やコンテンツの強化及び産地間の連携・周遊・自走の促進】

日本遺産「肥前窯業圏」の魅力は、豊かな自然や風土、それらが育んできた百花繚乱のやきものの歴史や独自の成長を遂げた文化であり、その個性・特色を来訪者や地域の内外に知っていただく必要があると考えている。

そのために、産地間を周遊できる周遊パスポートや仕組みづくり、個性・特色やストーリーを感じることができる体験型コンテンツの造成や、肥前窯業圏を周遊する旅行商品の開発など、民間主体で事業を継続できるようサポートしていく。

また、行政としては伝統的建造物等の修理や整備・活用によるハード面でのコンテンツ強化を実施していく。

加えて、広域的な観光振興のためには交通機関と体験等の施設利用の結びつけ（Maas の活用や DX 化の推進）により肥前窯業圏の活性化につなげていく。

【取組 3：日本遺産認定を利用した地域の認知向上】

「日本磁器のふるさと 肥前」として、肥前窯業圏が日本遺産に認定されていることは、地域を PR するうえで大きな武器となるため、日本遺産へ認定されていることをブランドとして発信する。具体的には、各産地で行われるやきもの関係のイベントやストーリーを感じられる商品開発等に合わせて PR を実施していく。

また、公開講座や SNS 等での認定ストーリーの発信、イベント等を活用して肥前窯業圏の文化やストーリーを知っていただく機会を増やしていくことや、日本遺産サミットや日本遺産の日イベントなどの「日本遺産」を PR する文化庁主催の関連イベントへの積極参加などを行っていく。

加えて、九州内には日本遺産に認定されている地域が多くあり、これまでも連携を行うことがあったが、令和４年度の日本遺産サミットが下関・小倉で開催されることを契機に、九州内での日本遺産の連携を強める機運が醸成されており、それを活かした日本遺産間の相互の連携も進めていく。

【取組４：大規模イベント・キャンペーン等を活用した認知向上】

令和４年に西九州新幹線が暫定開業し、それに伴い行われる佐賀・長崎デスティネーションキャンペーンや令和６年の国民スポーツ大会（佐賀県開催）、令和７年の国民文化祭（長崎県開催）等により域内に多くの方が訪れるチャンスをとらえ、個人旅行客が肥前窯業圏のストーリーに触れ、その魅力を体験するような仕組みづくりの構築に取り組む。具体的には、前述した旅行商品の造成等の取り組みやそれらにより生まれた商品や体験コンテンツ等がより多くの方の目に触れるように、上記キャンペーン等のHPへの掲載、肥前窯業圏とそのストーリーを知っていただく記事の掲載などを行っていく。

また、九州IR推進協議会の九州周遊観光WGにおいて肥前窯業圏のやきものは九州を代表する観光資源（キラコンテンツ）として位置づけられており、長崎県において整備が計画されているIR施設内での活用や海外での認知など日本遺産として効果的な発信も合わせて検討していく。

【取組５：受け入れ態勢の更なる整備】

これまで記載してきた体験コンテンツや旅行商品、情報発信等により集客した旅行者を受け入れ、日本遺産のストーリーに触れながら周遊や体験をしていただけるよう、受入体制の強化する施策を行う。

具体的な取り組みとしては、佐賀県立九州陶磁文化館が外国人の方ややきものに詳しくない方にもわかりやすく魅力を伝えることができるようリニューアルされ、集客力や展示の質等もアップすることから、更なる来訪者の増加とそれに伴うアプローチが可能となる。それに合わせ、認定ストーリーの解説や肥前窯業圏の解説などの表示や多言語化、日本遺産の情報発信を行うことができるほか、それに伴い圏域内に日本遺産をPRできる場づくりも合わせて推進する。

加えて、これまで続けてきた伝統的建造物群の保存・整備・活用を引き続き推進し美しい景観や陶器店の空き家活用などにより、コンテンツの増加を図る。

また、やきものの魅力を感じる場の創出のため陶磁器産業の「ものづくり」をテーマにした「クラフト」を、地域を訪れて体感する「クラフトツーリズム」による体験造成や歴史文化に精通したガイドの育成を行うことで、やきもののさらなるファン獲得や歴史を体感いただけるように体制を整備していく。

【取組６：人材育成、地域における誇りの醸成】

これからも日本遺産「肥前窯業圏」を伝え、文化を継承していくためには地域を担う民間事業者や窯元などの人材を育成し、産地がこれからも残り続け、同時にこれらの人材へ日本遺産を伝えていく必要がある。そのために、日本遺産ガイドの引

き続いた育成、観光・窯業関係者や旅館・ホテル関係者への日本遺産の周知や、産地の地盤強化のためのマーケティングやWEB等の研修実施等を行っていく。

また、地域住民への誇りを醸成するため、学校や大学との連携を進め、その際に学芸員の活用も検討しながら、陶磁器文化の普及啓発を推進していく。

【取組7：総合戦略の改定】

日本遺産「肥前窯業圏」のストーリーや魅力を適切に伝えていくために、協議会のメンバーや地域が一体となって同じ方向を向いて事業を進めていくよう、2016年に策定した総合戦略の改定を行う。

(4) 実施体制

○協議会名：「肥前窯業圏」活性化推進協議会

○設立目的：佐賀・長崎両県及び関係市町並びに関係機関が連携し、「肥前窯業圏」の歴史的・文化的魅力及び陶磁器を核とした地域の豊かな文化資源を活用し、地域活性化に資する事業を実施するため

○協議会役職

会長 佐賀県文化・スポーツ交流局長

副会長 長崎県県北振興局長、有田町商工観光課長

事務局長 佐賀県文化・スポーツ交流局文化課長

○構成団体

【民間】唐津焼協同組合、唐津やきもん祭り実行委員会、伊万里鍋島焼協同組合、伊万里市観光協会、一般社団法人武雄市観光協会、武雄市商工会、一般社団法人嬉野温泉観光協会、肥前吉田焼窯元協同組合、一般社団法人有田観光協会、株式会社有田まちづくり公社、日本版DMO公益財団法人佐世保観光コンベンション協会、三川内陶磁器工業協同組合、一般社団法人平戸観光協会、公益財団法人松浦史料博物館、波佐見焼振興会、一般社団法人波佐見町観光協会

【行政】佐賀県（文化・スポーツ交流局 文化課）、長崎県（県北振興局 商工観光課）、唐津市（唐津焼振興室）、伊万里市（企業誘致・商工振興課）、武雄市（商工観光課）、嬉野市（観光商工課）、有田町（商工観光課）、佐世保市（ふるさと物産振興課）、平戸市（文化交流課）、波佐見町（商工観光課）

【オブザーバー】佐賀大学リージョナルイノベーションセンター コーディネーター
長崎県立大学地域創造学部実践経済学科 准教授

【協議会概要】

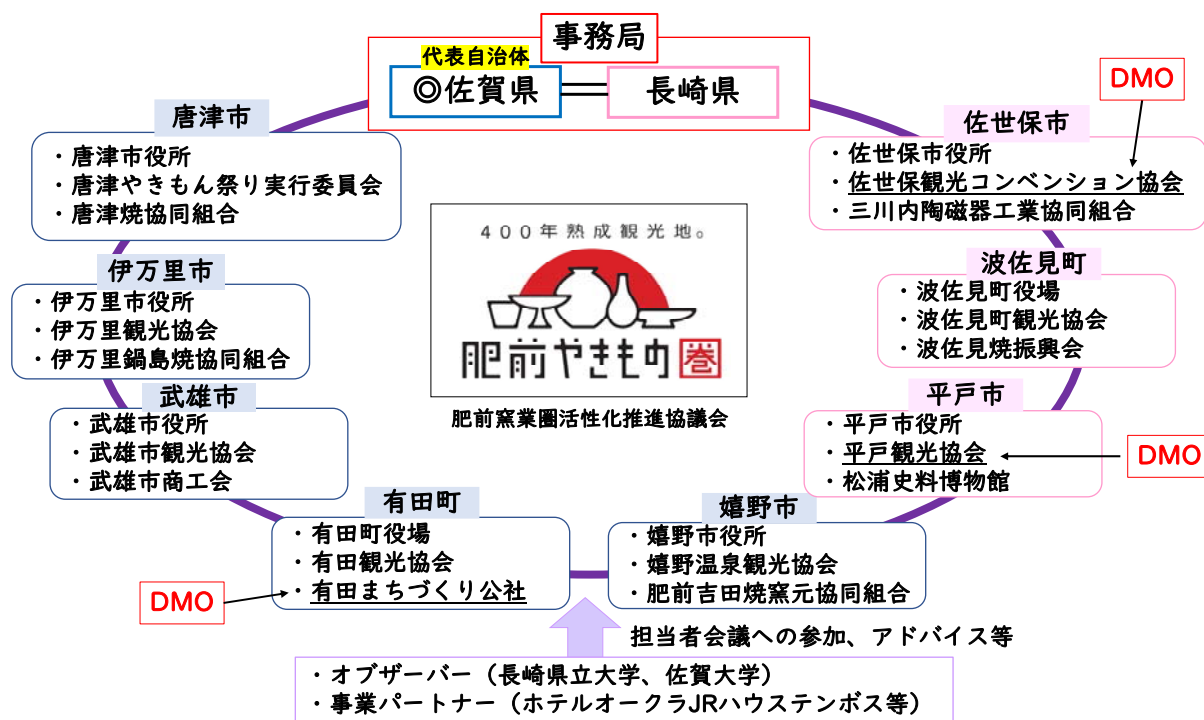
事務局を佐賀県と長崎県が担い、年に1度の総会及び、2か月に1回程度の担当者会議等において、事業内容の決定や進行などを行っており、総会や担当者会議は基本的に

全団体の出席で行う。

各産地の行政や観光・商工団体や企業、陶磁器関係団体等によって構成されており、肥前窯業圏の核である民間の窯業関係者と観光関係者との意見交換や合意形成をスムーズに行うことができる体制を構築している。

主に窯元組合や観光協会などの民間が「動」の部分を、行政が「後方支援」の部分を担い、それぞれの役割分担に応じた体制での協議会活動に努めている。また、事務局においては、県や市町を跨いで構成されている協議会である特性を活かして担当者会議を頻回に実施し、自治体や民間の枠を超えた活発な交流に繋がるよう努めている。

【体制図】



【人材育成・確保の方針】

- ・協議会に加え、各地の個性的な魅力を活かすため、各産地で様々な分野で活躍する人材や民間企業との更なる連携も視野に入れて検討を行う。
- ・やきもの関連の博物館等施設や学校教育機関等と連携し、地元の小中高生や大学生を対象にした普及啓発やワークショップによる人材育成の実施

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

【取組1 構成団体の個別計画や方針等への日本遺産の位置づけ】

- ・協議会構成自治体以外の団体においても、年間計画や方針等に日本遺産ややきもの文化の活用を組み込み、さまざまな主体が、計画等に基づいて日本遺産ややきもの文化を活用した取組を推進するよう姿勢の明文化を図る

【取組 2 産地・協力団体への働きかけ】

- ・構成団体はもちろんのこと、産地全体が「日本磁器のふるさと 肥前」の地域資源としての価値を評価し、ともに取り組み、PRしていく関係を構築すべく、ストーリーに共感する経済関係団体や観光関係団体、事業者、窯元等を事業メンバーとして参画できる体制とし、日本遺産ブランドを活用した観光振興、地域振興の継続的実施の輪を拡大する
- ・また、それぞれの構成メンバーがそれぞれの形で行う日本遺産に関する活動を幅広く掘り起こし、域内全体で息の長い日本遺産の活用及び浸透を図っていく

【取組 3 専門家との連携による将来の中核人材の育成】

- ・やきもの関連の博物館等施設や学校教育機関等と連携し、地元の小中高生や大学生を対象にした普及啓発による人材育成の実施や、地域を担う民間事業者や窯元などの人材を育成する。そのために、日本遺産ガイドの引き続いた育成、観光・窯業関係者や旅館・ホテル関係者への日本遺産の周知や、産地の地盤強化のためのマーケティングやWEB等の研修実施等を行っていく

【取組 4 継続的な収益事業の実施】

- ・協議会負担金や内閣府の地方創生推進交付金のほか、協議会収益事業として R2 年度から実施している「窯ガチャ」R3 年度から実施している「周遊パスポート」の販売益の増、ふるさと納税の活用などによる体制の整備と民間事業者による自走化を図る

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産「肥前窯業圏」における構成文化財は、各産地におけるやきもの文化や景観、窯跡などで構成されているが、それらを保存・活用した好循環を生むため、以下のような取り組みを進めていく。

【取組 1 伝統的建造物群保存事業等の実施】

- ・有田町有田内山伝統的建造物群保存地区（国重要伝統的建造物群保存地区）の保存事業や公開活用事業の実施
- ・波佐見町鬼木、中尾地区の（波佐見町の文化的景観）文化的景観保護推進事業の認定実現

【取組 2 文化・構成文化財の認知向上及び周遊】

- ・地元住民や観光客が構成文化財ややきもの文化を理解し、紹介したくなる周遊コンテンツや旅行商品等の開発及び継続
- ・域内への観光客入込数の増加により、文化観光産業が活性化し、エリアが賑わうことや構成文化財を中心に地域にお金落ちることで、風景を彩る文化財や文化資源の活用に対する地域住民の意識向上やシビックプライドの醸成
- ・クラフトツーリズムによるストーリーの体験を通じた魅力を感じる場づくり

【取組 3 構成文化財の正しい理解】

- ・児童・生徒を対象としたワークショップなどの取組みによる、地元理解の醸成

【取組 4 構成文化財の保護のための財源確保】

- ・クラウドファンディングなど民間資金の検討や、構成自治体におけるふるさと納税の活用などによる文化財の保存活用魅力増進の推進

【取組 5 文化財保存活用大綱の方針に沿った文化財の保護・整備活用】

- ・文化財保存活用大綱に記載されている方針に沿って、更なる文化財の保護・整備活用の推進を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	「肥前窯業圏」活性化推進協議会の運営		
概要	協議会事業を引き続き行い、日本遺産「肥前窯業圏」の認知や魅力の向上等を図るために継続して定例的な協議会の担当会議や市町担当会議等を引き続き実施するほか、民間企業や窯元などとの関わりを増やし、事業の実施や各市町・産地での取り組みの共有等を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	担当会議の運営・開催	肥前窯業圏の活動を今後も引き続き活発に行い、日本遺産の魅力を伝えられる事業を行うために、担当会議を運営・開催し協議会活動の企画運営、窯業関係者や観光関係者との意見交換や合意形成を行う	協議会 民間事業者
②	関係する企業・団体の増	協議会の活動に参画・協働する企業・団体を増やし、民間とも協働した、地域に根づく協議会として事業を進めていく	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
③	オブザーバーの参画	地域経済などに詳しい専門家をオブザーバーとして協議会に配置し、意見交換を行うことで、協議会の運営を更に強固なものとする。現在は、長崎県立大学及び佐賀大学より参画いただいております、この体制を引き続き維持していく。	協議会 長崎県立大学 佐賀大学
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	肥前窯業圏活性化推進協議会		8 回

2020 年	担当者会議の開催回数		8 回
2021 年			4 回
2022 年			4 回
2023 年			4 回
2024 年			4 回
事業費	2022 年：0 円	2023 年：0 円	2024 年：0 円
継続に向けた事業設計	協議会のメンバーには DMO や民間企業・団体及び観光協会や窯元組合などが所属しており、活発な意見交換を行っている。ここに民間企業や団体との関わりを増やし、事業の実施や各市町・産地での取り組みの共有等を実施して地域を活性化させ、協議会の存在意義を高めていく。		
(事業番号 1－B)			
事業名	民間主導での協議会運営に向けた事業の促進		
概要	現在、佐賀県と長崎県や構成市町による負担金収入をメインとして事業を行っているが、これだけに頼らない体制を作るために財源・収益を確保し、将来的な協議会の自走化に備える。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	収益事業の実施	これまで、収益事業として「窯ガチャ」「公式 HP のアフィリエイト収入」「周遊パスポート製作」等により協議会の収益事業としているが、これらを継続することに加え、新たな収益事業も検討していく。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
②	民間団体との自走に向けた協議	将来的な協議会事務局の民間移行を見据え、事務局機能や中心的な役割を果たす民間団体と協議を進めていく	協議会 民間事業者
③	ふるさと納税の実施	日本遺産についてのふるさと納税寄附を募集し、財源とする	佐賀県・長崎県・及び市町
④	地方創生推進交付金の確保	佐賀・長崎の連携事業として交付金の交付を受けているが、引き続き交付金を申請・執行し、財源を確保する	佐賀県・長崎県・及び市町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	協議会の自主事業及びふるさと納税で挙げた収益の合計額（もしくは再投資した額）		-
2020 年			-
2021 年			-
2022 年			200,000 円（純利益）
2023 年			250,000 円（純利益）
2024 年			300,000 円（純利益）
事業費	2022 年：1,000 千円	2023 年：1,000 千円	2024 年：1,000 千円

継続に向けた 事業設計	事業を行うための費用を捻出できるよう、協議会の負担金や地方創生推進交付金などの財源があるうちに、更なる収益事業の検討を協議会で行う。協議会の事務局機能の民間移行などを行った場合、その収益事業を財源とし、事業を継続していく。
----------------	---

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」の今後のビジョン検討事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」の今後の事業内容やターゲット、ビジョンなどを協議会全体で共有することで、効率よく皆が同じ方向を向いた事業を進めていく。また、協議会だけでなく各県・市町の計画にも位置付けることで、行政でも日本遺産を活用した地域活性化の取り組みを推進していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	効果や現状の分析	イベント等や WEB でのアンケートを実施し、その結果を分析し、事業への反映を行う	協議会
②	『「肥前窯業圏」活性化推進協議会事業戦略』の更新	2016 年に策定した協議会の事業戦略の更新を行い、ターゲットやビジョン等を明確にする	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等

③	総合計画等への「日本遺産」の位置づけ	佐賀県・長崎県・及び各市町の総合計画等に「日本遺産」の位置づけを行う	佐賀県・長崎県・及び市町
④	文化財保存活用大綱の方針に沿った文化財の保護・整備活用の整備・活用	文化財保存活用大綱に記載された方針に沿って、更なる文化財の保護・整備活用を推進する。	佐賀県・長崎県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	戦略を立てた数及び各市町総合計画への「日本遺産」の位置づけ		1 件
2020 年			1 件
2021 年			1 件
2022 年			2 件
2023 年			4 件
2024 年			6 件
事業費		2022 年：400 千円 2023 年：400 千円 2024 年：400 千円	
継続に向けた事業設計		2016 年に策定した『「肥前窯業圏」活性化推進協議会事業戦略』をベースに、協議会において戦略の改定を行う。また、協議会の総会などで県・市町に対し、今後の総合計画等の策定においても、日本遺産の活用による地域活性化の取り組みを位置づけることを呼びかける。	

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」を伝え、残していくプレイヤーなどの育成事業		
概要	日本遺産のストーリーや文化を正しく伝え、継承していくために、ガイドの育成を引き続き行うことに加え、地域を牽引する「地域プロデューサー、地域プレイヤー」の配置の検討を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド・伝え手の育成	地域内のガイド協会等に参加されているガイドに対し、継続して日本遺産のストーリー等を伝えることに加え、アフターコロナを見据え、旅館やホテルの従業員等に向けた日本遺産の啓発を行い、観光案内所やホテル・旅館など、旅行客が訪れやすい場所にいるガイドや従業員が自然に日本遺産の案内をいただけるようなスキームを構築する	協議会 ガイド協会 民間事業者 窯元組合 観光協会 旅館・ホテル組合 等

②	「地域プロデューサー、地域プレーヤー」の配置	産地をよりよく、面白くしていこうという人材を選定し、産地の取り組みを牽引していただくことを検討していく。	協議会 民間事業者	
③	「クラフトツーリズム」によるガイドの育成	歴史文化に精通したガイドの育成を行うことで、やきもののさらなるファン獲得や歴史を体感いただけるように体制を整備していく。	協議会 民間事業者 窯元組合	
④	「まちの小さな観光案内所」の普及	①～③の取組を活用できるよう、民間事業者や関係団体と協働し各々の店舗等で来訪者に案内する。	民間事業者 協議会	
年	事業評価指標		実績値・目標値	
2019 年	日本遺産ガイド人数＋講座の開催数		-	
2020 年			-	
2021 年			52（人＋回）	
2022 年			55（人＋回）	
2023 年			60（人＋回）	
2024 年			65（人＋回）	
事業費		2022 年：400 千円	2023 年：400 千円	2024 年：400 千円
継続に向けた事業設計		協議会負担金や国の交付金を活用しながら、ガイド研修の講師や準備、「地域プロデューサー、地域プレーヤー」への謝金等の支出を行う。協議会で収益が得られるようになったのちには、その財源で事業を継続することを検討していく。		

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」の保護及び活用と広域展開事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」をこれからも伝え、保護していくために文化財の保護を行ったり、来訪者や圏域内の方々に日本遺産を知っていただくための場所の整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	肥前のやきもの文化を伝える拠点づくり	佐賀県の有田町にある「佐賀県立九州陶磁文化館」のリニューアルを進めており、そこで肥前のやきもの文化を大型のパネルやユニークな展示スタイル、映像作品などを利用して効果的に日本遺産のストーリーを伝える	佐賀県

②	やきもの文化を感じられる街並みの保存・活用	有田町にある有田内山伝統的建造物群保存地区を町家などの保存修理事業（国庫補助事業）により、伝統的町並み景観の回復と文化財的価値の向上が進み、更なる保存・活用につながっていく。波佐見町においては、「文化庁補助金歴史生き生き！施設等総合活用整備事業」を活用し、肥前波佐見陶磁器窯跡の整備を実施している。また、鬼木・中尾（陶郷）地区の（波佐見町の文化的景観）文化的景観保護推進事業の認定（文化庁）を受けるため現在準備を行っている。	佐賀県・長崎県 有田町・波佐見町
③	日本遺産センター（仮）の整備	肥前窯業圏の各産地に日本遺産の情報やストーリーを伝えられる場所を、掲示板やパンフレット、「窯ガチャ」などとともに設け、情報の発信を行う。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	肥前のやきもの文化を伝えられる拠点、及び日本遺産センターの数		-
2020 年			-
2021 年			-
2022 年			2 箇所
2023 年			4 箇所
2024 年			6 箇所
事業費	2022 年：500 千円 2023 年：500 千円 2024 年：500 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産を伝える拠点や日本遺産センターなどは、県有施設や協議会メンバーが保有する既存の施設を利用して日本遺産の周知を図ることを検討しており、ランニングコスト等をかけることなく運用していく。		

(7) - 5 観光事業化	
(事業番号 5 - A)	
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」のコンテンツ増強事業
概要	肥前窯業圏の魅力を展開し、周遊していただけるように、周遊パスポートの作成や、自走を前提とした体験型コンテンツ・旅行商品・イベントなどの造成を行っていく。

	取組名	取組内容	実施主体
①	肥前やきもの圏周遊パスポートの継続製作	着地型旅行商品素材として販売した、やきものに特化した体験や特典などの情報やクーポン等を掲載した周遊パスポートについて、改良を行い、旅行会社や書店などへの販路開拓を行うことで、来訪者や興味を持つ層に対して、肥前窯業圏の認知や関心の醸成を行い、肥前窯業圏を周遊する際の定番アイテムとすることで、産地の周遊・ストーリーへの理解・日本遺産の認知向上につなげていく	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
②	民間主体でのイベント造成への補助及び体験型コンテンツ、旅行商品の造成	民間主体でのイベントや体験型のコンテンツの造成への補助を行い、補助後の自走化を促したり、旅行商品の売り込みや上記周遊パスポートに掲載を行うことで、自走コンテンツの充実とその認知・来訪・体験の実施という流れを生み出し、圏域の観光振興を図る	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
③	定期的なイベントの実施・参加	福岡都市圏や肥前窯業圏の圏域内でのイベントや、佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン等へ参加し、鉄道利用者への肥前窯業圏の認知向上と充実させたコンテンツの展開を図る	協議会・佐賀県・長崎県・及び市町
④	「クラフトツーリズム」による体験造成	陶磁器産業の「ものづくり」をテーマにした「クラフト」を、地域を訪れて体感する「ツーリズム」と一体化させ、職人との交流や工場の見学等で産業の歴史を体感するエリアとして確立することで、訪日外国人の観光客誘致とやきものの需要獲得や文化の浸透を目指す	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会 等
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産の認定ストーリーや構成文化財を活用した新規事業（体験型コンテンツ等）ののべ創出件数＋各年度のイベントへの参加数		-
2020年			-
2021年			7（件＋回）
2022年			14（件＋回）
2023年			21（件＋回）
2024年			28（件＋回）
事業費		2022年：3,000千円 2023年：3,000千円 2024年：3,000千円	

継続に向けた 事業設計	観光コンテンツやイベント、魅力の発信などを行うこれらの事業は、すべて自走を前提とした、もしくは既に自走している事業であり、今後も継続して地域を中心に事業を進められるよう検討していく。		
(7)－6 普及啓発			
(事業番号6－A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」普及啓発事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」のストーリーややきもの文化の違いなどの認知や関心を高め、地域の文化に誇りをもっていただくよう普及啓発を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学校との連携	未来を担う地域の小・中・高校生に対する陶磁器文化普及啓発(ストーリーを学べる資料教材の開発等)や協議会にオブザーバーとして参加している長崎県立大学・佐賀大学の教授やゼミ生の協力をあおり、肥前窯業圏の理解促進や課題認識を一緒に行う	協議会 学校教育機関 佐賀大学 長崎県立大学
②	地域を巻き込んだイベントの実施	ストーリーを感じていただくために、地域が主体となって自走するイベントや体験コンテンツなどの造成を図る。現在、「肥前やきもの圏作家展」などの事業が自走しており、こういった取り組みを継続して行っていく。	協議会 民間事業者 窯元組合 観光協会等
③	やきものミニチュア「窯ガチャ」の運用	産地ごとのやきものの特徴や日本遺産のストーリーを知っていただくために、「窯ガチャ」を各産地に設置し、普及啓発を図っている。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産の認定ストーリーや構成文化財を活用した新規事業の創出件数＋セミナー等の開催回数		-
2020年			-
2021年			7(件＋回)
2022年			14(件＋回)
2023年			21(件＋回)
2024年			28(件＋回)
事業費	2022年：3,000千円 2023年：3,000千円 2024年：3,000千円		

継続に向けた事業設計	学校との連携を図り、大学教授やゼミ生などと共に肥前窯業圏について考えることで、予算をかけることなく理解促進と課題認識を行うことができる。また、協議会との共催というかたちでイベントの補助と自走を促し、事業を増やしながら継続していくようにしていく。 加えて、やきものミニチュア「窯ガチャ」を運用することで、普及啓発と収益の捻出を図り、様々な事業の継続につなげていく。
------------	---

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7 - A)			
事業名	日本遺産「肥前窯業圏」情報発信事業		
概要	日本遺産「肥前窯業圏」の情報やストーリーを編集し、発信できるよう、協議会メンバーで協力した情報の更新や講座の実施等を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「肥前やきもの圏」公式 Instagram	魅力的なやきものや産地の日常やイベントを伝えるには写真や動画が効果的であり、特に Instagram は他の SNS と比較してもその相性が良い。アカウントを協議会メンバーが共有し、各自が有益で質の高い画像を投稿することで効率化を図りながら、閲覧者へやきもの圏に対する興味を持たせる。閲覧者は、公式 HP へのアクセスが可能であり、さらに来訪へ向けた詳細な情報を獲得できる。	協議会 民間事業者
②	公式 HP の更新	上記 Instagram と同様に、協議会のメンバーが各産地で行われているイベント情報や日常の風景などを、公式 HP にて発信する。また、公式 HP には旅行会社の宿泊予約サイトがリンクされており、そこから予約を行うとアフィリエイト収入が得られるようになっており、来訪につながる動線とそれに伴う収益が確保できる。	協議会 民間事業者
③	情報発信やWEBマーケティング講座の実施	窯元や地域の民間企業等が地域の魅力を自らWEB等を使って発信したり、販売力の向上ができるよう、講座を実施し底上げを図る	協議会
④	民間事業者による観光型 MAAS の構築	造成した体験コンテンツや交通機関、施設の予約が可能なアプリケーションを構築する	民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値

2019 年	日本遺産「肥前やきもの圏」公式ＨＰ閲覧数	-
2020 年		43387 件
2021 年		集計中
2022 年		44000 件
2023 年		44500 件
2024 年		45000 件
事業費	2022 年：300 千円 2023 年：300 千円 2024 年：300 千円	
継続に向けた 事業設計	無理なく低予算で事業を継続するために、情報の更新は協議会メンバー 自らでルールを作り、協力しながら行っており、これを継続していく。 また、講座については地域で先進的な取り組みを行っている方や、地域 のWEB系の企業などと協働しながら行っていく。	